

この評価ソフトは、改正省エネ基準の経過措置が終る2015年3月までの期間限定で使用できます。

CASBEE 新築[簡易版]

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版)2010年追補版Ver.2 (BPI/BEI対応) | 使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2010bei&bpi(v.2.11)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)THE GRODO 薬院浄水 新築	階数	地上8F
建設地	福岡市中央区薬院4丁目396	構造	RC造
用途地域	第1種住居地域	平均居住人員	150 人
気候区分	地域区分V	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2016年8月 予定	評価の実施日	2015年9月25日
敷地面積	1,879 m ²	作成者	松本拓也
建築面積	1,160 m ²	確認日	2015年9月26日
延床面積	5,145 m ²	確認者	定森淳一



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.5 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値: 100% (kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み: 94%

③上記+②以外の: 94%

④上記+: 94%

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.2

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.3

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.7

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.7

LR のスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.9

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.1

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項		
総合		その他
<ul style="list-style-type: none"> ・室内環境、サービス性能に配慮している。 ・緑地を設置、省エネ性能の高さも確保し、敷地外環境への配慮も行っている。 ・出窓を配置することで、邸宅としての美しさと格を保たせている。 		0
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
<ul style="list-style-type: none"> ・開口部遮音性能T-2、床材には等級LL(II)-4を採用し、遮音性能に配慮している。 ・共用部、住宅部共に高い昼光率を確保している。 ・屋光は庇、カーテンで制御する。 ・内装材はF☆☆☆☆を採用し、空気質環境に配慮し 	<ul style="list-style-type: none"> ・光ケーブル設置。 ・防汚性の高い仕上材を採用している。 ・外壁タイル40年、空調・給排水管など、耐用年数の長い建材を採用している。 ・節水型便器の採用、系統の分離など非常時でも信頼性は高い。 ・階高3.01m以上で階 	<ul style="list-style-type: none"> ・10%を超える外構緑化を行っている。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
<ul style="list-style-type: none"> ・エネファーム、LED照明等の高効率設備機器の採用に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・LGST地、OAフロアの採用など、建物のリサイクル性に配慮している。 ・防水工事のプライマーなど化学物質の使用削減に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・LCCO₂排出率は94%で地球温暖化防止に配慮している。 ・エネファームの採用で大気汚染防止に努めている。 ・光害対策が「ドラインのフェクリスト」の過半を満たし、広告物照明を行わないなど、光害の抑制に努めている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される